

秋田県における「日本語学習支援者養成講座」(初心者コース)の実践報告

地24 平田友香(秋田県日本語教育総括コーディネーター)

【実践課題】

- ①日本語学習支援者養成講座開催において、周知方法、参加者が増える魅力的な内容や周知とは。
 - ②日本語学習支援の未経験者、初心者にとって「受講したい」と思う内容・周知方法とは。
 - ③受講者にとって学んだことがすぐ役に立ち、楽しく成長を実感できる講座とは。
- 夏期研修Ⅱを経て、課題の整理を行った。
- ※(1)日本語学習支援者の高齢化、人手不足の解消につながるような養成講座を開講するには、将来支援者となり得るような支援者候補の裾野を広げる必要がある。
 - (2)支援者候補の裾野を広げるために、周知先と関係各所も拡大する必要がある。

【日本語学習支援者養成講座(初心者向け)の実践】

I. 日本語学習支援者養成講座(初心者向け)概要の決定

- ①主催 公益財団法人秋田県国際交流協会
(令和7年度秋田県日本語教育環境整備推進事業業務委託)

- ②趣旨

外国人県民が「地域の一員」として日常生活や社会生活を円滑に営むためには、住民同士のコミュニケーションツールとなる日本語、そして互いの文化・習慣の違いについて適切に学ぶ機会が必要である。県内各地域において、そうした学習を支援することのできる「日本語学習支援者」を確保・育成するため、「日本語学習支援者」〈初心者〉(※1)

として必要な知識・技術・専門性を身に付ける機会を提供する。

- ③開催日時・開催場所・定員・対象

日本語学習支援養成講座〈初心者向け〉(4時間×2日間)

日本語を正確に理解し的確に運用できる能力を持ち、日本語教師や日本語教室コーディネーター等と共に、学習者の日本語学習を支援し促進する役割を担う「日本語学習支援者」〈初心者〉として不可欠な知識を養うための基礎講座を実施する。

日時	開催場所	定員	内容
10/18(土) 10:00~12:00/ 13:00~15:00	合川公民館 研修室1・2	各回 【会場】30名 【Zoom】20名 【録画】なし	「日本語教育」って何をするの?
	Zoomによるハイブリッド型講座、 又は録画を後日視聴		「異文化コミュニケーション」ってどんなもの?
10/25(土) 10:00~12:00/ 13:00~15:00	合川公民館 研修室1・2		「地域日本語教室」ってどんなところ?
	Zoomによるハイブリッド型講座、 又は録画を後日視聴		地域に住む外国の方と話してみよう!

【対象】※1:地域日本語教室で活動中の方、あきた日本語サポーター、日本語教育や外国の方との交流に関心のある方、外国人を雇用する企業の方などで、日本語教育に関する専門的な研修を受けたことがない、または日本語学習支援の経験が3年未満の秋田県在住の方。

II. 日本語学習支援者養成講座(初心者向け)開講までの流れ

時期	周知関連	講座の内容
8月中旬		・国際教養大学教員へ講座の趣旨、内容(案)を周知、講座の講師担当の打診

8月末		・担当講師の決定 ・担当講師と内容についての打ち合わせ
9月中旬 ～下旬	・講座開講の周知 開始 一 市町村(日本語教室担当、教育委員会、社会福祉関連部署、広報) 一 ★北秋田市(開催地)近隣高校 一 ★県内の大学	・講座内容の決定 ・★講座を担当する講師に 「今日のCando」の提示を依頼
9月下旬	一 ★開催地(北秋田市)を鑑み、国際交流協会局長の仲介により、内陸線の駅にチラシを配布	・★各回を担当する講師にとっての目標を設定 ・目標を元に講座内容の詳細を決定 ・総括コーディネーターと講師で内容のすり合わせや確認
10月上旬	・申込者数を確認しながら、関係各所に連絡、周知の徹底	・★新アンケートの作成 ・★講師用引継ぎ・振り返りシートの作成
10月中旬 下旬	・第1回講座の開催 ・第2回講座の開催	
11月	・受講者アンケートのまとめ	・講師からの講座についてのフィードバック

★印は、夏期研修Ⅱ(対面)後、様々な助言を参考に今年度より新たに取入れた項目

Ⅲ. 日本語学習支援者養成講座(初心者向け) 講座を实践して

①受講者アンケートより

- (1) 受講者 10/18 15名受講(新規受講者、高校教師、高校生、日本語学習支援サポーター)有効回答者数14名
10/25 13名受講(18日からの受講者、外国人相談員)有効回答者数12名

(2) 満足度

内容	とてもよかった(満足)	よかった(満足)
「日本語教育」って何をするの?	64%	36%
「異文化コミュニケーション」ってどんなもの?	71%	29%
「地域日本語教室」ってどんなところ?	83%	17%
地域に住む外国の方と話してみよう!	83%	17%

(3) 養成講座から現場へ 受講者の声とコメントより(一部抜粋)

- ・受講者のうち2名が地域日本語教室での支援者を目指して授業見学に行った。
- ・支援したことがある受講者からも「忘れていたことを思い出せた。」「知っていたことを整理できた」とコメントがあった。

②講師の引継ぎ・振り返りシートより(一部抜粋)

- ・複数の講師(メイン講師、サポート講師、総括コーディネーター)がいたことでディスカッションが盛りあがった。
- ・県北で開催したことによって、県北の人材を少し開拓できたのではという手応えを感じた。
- ・開催場所のアクセスがもっとよければ参加できた高校生、県北の地元民がいたようだ。

Ⅳ. まとめ(実践を通して「行ったこと」「考えたこと」「困難だったこと」)

本講座では、初心者・未経験者を主な対象とし、地域日本語教室の実情を踏まえた内容構成と、受講後すぐに現場をイメージできる実践的な講座づくりを行った。その結果、受講者の満足度は高く、実際に地域日本語教室の見学につながるなど、支援者への第一歩を後押しする効果が確認できた。一方で、開催地や交通アクセスの制約、周知期間・方法の限界により、参加を希望しながら受講に至らなかった層が存在したことも課題として明らかになった。今後は、将来の支援者候補の裾野をさらに広げるため、周知先や開催方法の工夫に加え、会場の設備や通信環境等の講座運営に関わる外的要因が受講の妨げとならないよう配慮し、より参加しやすい養成講座の在り方を検討していく必要がある。